

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名 今村 浩司	職名 教授	学位 修士(福祉社会)(福岡県立大学)
----------	-------	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス(精神保健福祉)領域におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス(精神保健福祉)、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研究課題
精神障害者の地域生活支援に関する研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究 精神保健福祉士の専門性向上に関する研究 精神障害者の成年後見に関する研究 触法精神障害者の地域定着に関する研究

担当授業科目
相談援助の基盤と専門職(福祉学科1年通年必修4単位) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(福祉学科3年前期選択4単位) 精神保健学(福祉学科3年後期選択4単位) 精神障害者地域生活支援論(福祉学科4年後期選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(福祉学科3年通年選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(福祉学科4年通年選択2単位) 精神保健福祉援助演習Ⅰ(福祉学科2年後期選択1単位) 精神保健福祉援助演習Ⅲ(福祉学科4年後期選択1単位) 精神保健福祉援助実習Ⅰ(福祉学科3年選択4単位) 精神保健福祉援助実習Ⅱ(福祉学科4年選択4単位) ヒューマンサービス基礎演習(福祉学科1年前期必修1単位) ボランティア概論(保健福祉学部の看護学科・福祉学科・栄養学科1年前期選択1単位) ボランティア概論(人文学部の英語学科・観光文化学科1年前期選択1単位) 専門研究Ⅰ(福祉学科3年通年必修2単位) 専門研究Ⅱ(福祉学科4年通年必修2単位)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【相談援助の基盤と専門職】</p> <p>福祉学科1年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、刑務所福祉専門官やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーにより理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い理解を深めた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。</p>

<p>また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対しての援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p><b>授業科目名【精神保健学】</b> 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職も必修である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神保健学の実際を、視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p><b>授業科目名【精神障害者地域生活支援論】</b> 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p><b>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】</b> 精神保健福祉士レーン担当の3人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p><b>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】</b> 上記同様3人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p><b>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】</b> 精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、先ずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。</p>
<p><b>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】</b> 精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。</p>
<p><b>授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】</b> 対人サービスを行う専門職養成のために、5名の教員で統一テーマに沿ってコミュニケーション、自己表現、チームワークの3つの技能の習得を目指して、特にグループ化しての授業を中心に展開させた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p><b>授業科目名【ボランティア概論】</b> 新カリキュラムの中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティーにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。</p>
<p><b>授業科目名【専門研究Ⅰ】</b> 9名のゼミ生に対して、精神保健福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提</p>

供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、積極的に精神科病院や刑務所等の施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的なイメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】  
 専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告会で発表させ、報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生14名全員の就職が内定し、精神保健福祉士は12名合格、内10名が社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格をした。昨年度は、ゼミ生9名全員ダブル合格であったので、次年度に向けて取り組みたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年～現在）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト	共	2018年9月	日総研出版	① 日本医療ソーシャルワーク学会が編集した、社会福祉士養成の保険医療サービスの内容を踏まえ、さらに一步踏み込んだ臨床実践家の医療ソーシャルワーカー向けのテキストである。 ② 日本医療ソーシャルワーク学会編集 代表 村上須賀子 ③ 第5章社会資源の活用と権利擁護、3更生保護 114頁から116頁を執筆 総頁数・215頁 A4判

2018年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2、よくわかる成年後見制度ハンドブック～精神障害や認知症などのある人の意思決定支援のために～	共	2018年10月	中央法規出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 精神障害や認知症のある人の成年後見制度に係る意思決定支援のために作成された、社会福祉士や精神保健福祉士で成年後見活動を行う専門職のためのハンドブックである。</li> <li>② 監修 日本精神保健福祉士協会、編集 岩崎香、田村綾子</li> <li>③ 第3章成年後見制度の活用 第2節成年後見制度を活用する理由～そのメリットとデメリット 64頁から70頁を執筆 総頁数 184頁 A4判</li> </ul>
3、コメディカルのための社会福祉概論（第4版）	共	2018年12月	講談社	<ul style="list-style-type: none"> <li>① コメディカルに対して社会福祉全般の概要を解説したものである。執筆担当部分は「低所得者への福祉」であり、貧困と低所得の関係性、生活保護をはじめ公的扶助の制度的サービス全般にわたり解説して述べている。</li> <li>② 編集 鬼崎信好・本郷秀和</li> <li>③ 第1部社会福祉とその分野 第8章低所得者福祉 103頁から1116頁を執筆 総頁数 216頁</li> <li>④ A4版</li> </ul>
(学術論文・総説 等) 1、これからのメンタルヘルス～精神保健福祉士に期待すること～	共	2019年1月	「精神保健福祉」 VoL.50 No.1 通巻116号	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 第54回日本精神保健福祉士協会全国大会第17回日本精神保健福祉士学会記念企画シンポジウムの発言要旨の内容を整理したものである。</li> <li>② 発行 日本精神保健福祉士協会</li> <li>③ 15頁から21頁を執筆</li> </ul>

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2、メンタルヘルスソーシャルワーク実践の深化～パラダイムの再考～	単	2018年7月	「PSW通信」No. 215	① 日本精神保健福祉士協会 構成員向けに、精神保健福祉士の置かれている状況やメンタルヘルスソーシャルワーカーの実践の深化へ向けての再考をまとめたものである。 ② 発行 日本精神保健福祉士協会 ③ 12頁を執筆

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	西南女学院大学 共同研究費	○谷川弘治、今村浩司、吉原悦子、樋口真己、笹月桃子、石丸美奈子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
日本精神保健福祉士協会	理事	2001年4月～
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001年4月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012年7月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002年9月～
北九州地区社会福祉専門職5団体連絡協議会	代表世話人	2006年4月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005年10月～
北九州成年後見センター	理事	2006年3月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005年4月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001年4月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005年7月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012年4月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005年4月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006年4月～

北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006年4月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008年7月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013年4月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013年4月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター）精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014年4月～ 2014年6月～
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016年8月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

地域連携室 副室長  
 入学試験 委員  
 西南女学院大学精神保健福祉研究会 顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会）  
 福祉学科精神保健福祉士養成レーン 担当  
 教員免許状更新講習会学内開催分 講師  
 「発達上の問題を抱える子どもやその保護者に対する連携および支援について」（養護教諭）  
 シニアサマーカレッジ学内開催分 講師「メンタルヘルスとコミュニケーション」  
 北九州市民カレッジ学内開催分 高等教育機関提携コース 講師「現代社会とコミュニケーション」  
 北九州市民カレッジ学外開催分 大学連携リレー講座 講師「意思決定支援について」